



- ①電力の町「川越」
- ②水辺の町「川越」

産業  
川越町

## 電力の町「川越」

川越町は、1959（昭和34）年の伊勢湾台風【→P7】による未曾有の大災害を契機に、住民を水害から守る安全性と企業誘致による地域の発展と住民福祉の願いをこめて地先の海面埋立事業を考え、1973（昭和48）年埋立事業が完成しました。この埋立地に中部電力川越火力発電所があります。1989（平成元）年に1号機（70万kw）が、その翌年に2号機（70万kw）が、1996（平成8）年に3号系列（170.1万kw）が、その翌年に4号系列（170.1万kw）がそれぞれ運転を開始しました。燃料は液化天然ガス（LNG）を使用しています。1・2号機の発電方式は、超々



発電所管理室（川越町提供）

臨界圧二段再熱方式を採用し、熱効率46.3%を達成しています。3・4号系列は、コンバインドサイクル発電方式を採用し、1・2号機を上回る熱効率53.9%以上を達成しています。

この発電所の総出力は480.2万kwで、世界最大級の火力発電所です。付随した施設には、地球というスケールでエネルギー資源の有限性を認識した上で、エネルギーと生活との関わり方にいたるまでを理解できる「川越電力館テラ46」や、発電所の排熱エネルギーを利用した「温水プール」等があります。

▪ 火力発電以外の発電についても調べてみましょう。

## 自然

## 川越町

## 水辺の町「川越」

【朝明川】「川越」の名が示すとおり、町の北東端を員弁

川、町内を朝明川が流れています。朝明川の河川敷には、自然の緑がたくさん残っています。また、美しい高松海岸を形成し、伊勢湾に注いでいます。

【高松海岸】町内に残る美しい砂地の海岸です。遠浅の干潟には、いつも海鳥が集まり、貴重な自然が残っています。海鳥の餌場になる干潟には魚介類や虫が多数生息し、多くの種類の植物が自生しています。高松海岸は、人々の憩いの場でもあります。潮干狩り、釣り、マリンスポーツなど、休日ともなると、近隣の市町からも憩いを求めて大勢の人々が訪れます。

【水路】古い歴史を感じさせる家並みが残る地区の水路には、きれいな水が流れ、コイが放流されています。歩く人をほっとさせてくれる水辺の景観を形成しています。



水路 (川越町提供)

- あなたが住むまちの近くにある干潟には、どんな魚介類や虫、植物が生息しているか調べてみましょう。

COLUMN  
コラム

## 砂浜の海岸は、生きものたちの楽園

伊勢湾沿岸には、砂浜海岸の環境が広がっています。砂浜海岸は、乾燥や塩分を含む潮風など厳しい環境のように思えますが、その一方で、たくさんの種類の生きものたちが見られるすばらしい自然環境でもあります。

5月頃には、淡いピンクの花を咲かせるハマヒルガオや白い花を付けるハマボウフウが咲き乱れ、美しい花畑になります。その代表に津市河芸町芦原海岸が上げられます。一見、小型のクワガタムシのように見える肉食性昆虫のオオヒョウタンゴミムシも生息しています。また、砂浜は、県の鳥であるシロチドリ繁殖地でもあり、海辺には、ゴカイ類、カニ類、貝類などを求めて、シギ類やカモメ類などのたくさんの鳥たちが集まります。5月から8月頃の夜間には、産卵のためにやってくるアカウミガメも見られます。

しかし、砂浜の海岸の周辺は、埋め立てなどの開発によって生きものの生息環境が悪化したり、波の浸食により砂浜が先細ったりしてきていることから、砂浜の海岸に生息する生きものたちの多くが、絶滅のおそれのある状態になってきています。海辺の生きものたちに関心をもって自然の大切さを学び、保護しましょう。【→P84】



ハマヒルガオ・ハマボウフウの群落



オオヒョウタンゴミムシ